

報道提供資料

令和7年11月26日

教職員課

課名

担当者

○県立学校について

県立学校人事係長 内田 俊行

直通電話：082-513-4922

内線：4922

○小中学校について

小中学校人事係長 園山 和志

直通電話：082-513-4924

内線：4924

令和7年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）

～本県から次の3名が表彰されます～

1 被表彰者

広島市立観音小学校長 堀 井 俊 宏 (60歳)

呉市立吉浦中学校長 河 本 英 希 (60歳)

広島県立府中高等学校長 國 藤 生 美 (60歳)

※ 年齢は表彰式（令和7年12月3日）時点です。

※ 功績等は裏面のとおりです。

2 表彰の概要

趣旨	学校教育の振興に関し、特に功績顕著な教育者の功労をたたえ文部科学大臣がこれを表彰するもので、毎年実施されている。
対象	大学及び高等専門学校を除く国立学校、公立学校又は私立学校の校長、園長又は教員

3 表彰式

(1) 期日 令和7年12月3日(水)午後0時45分から

(2) 場所 文部科学省 3階講堂(東京都千代田区霞が関3-2-2)

令和7年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）について

氏名 (年齢) 現職	功績概要
堀井俊宏 (60歳) 広島市立観音小学校長	<ul style="list-style-type: none"> ○校長として卓越したリーダーシップを発揮し、教職員の主体性を生かした活気ある学校経営をしている。平成30年度～令和2年度まで、「個に応じた指導研究校」、令和4年度～令和5年度までは、「特色ある教育実践研究校」、令和6年度からは「授業改善実践研究校」の指定を受け、算数や理科教育の実践的な研究を行い、その成果を全市に普及した。 さらに、令和6年度は第57回全国小学校理科研究協議会研究大会の会場校として、研究成果を全国に発信し、高い評価を得た。 ○ 広島市小学校長会長、幹事長、広島県小学校教育研究会理科部会事務局長等を歴任し、高い専門性と的確な判断力及び指導力で、本市の小学校教育の振興発展に寄与している。 ○広島市小学校長会においては、今年度会長を務め、豊富な見識と実践を生かして会の運営を行い、公立学校の充実と発展に貢献した。
河本英希 (60歳) 吾市立吉浦中学校長	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導に関して、生徒支援に係る専門知識を生かし、自らの実践に基づく教職員への具体的な指導を行うなど、取組の基盤作りに尽力した。 ○SSR(スペシャル・サポート・ルーム)の取組を県内でもいち早く開始しており、不登校等生徒に対する細やかな支援を組織的に行った。特に、組織的な支援体制の構築に努め、情報共有の徹底と支援体制の確実な定着を図った。取組を発信、普及するため、公開研究会で取組を発表するとともに、他県の教育委員会等、多くの視察を受け入れることにより、他校の不登校等児童生徒支援の充実にも寄与している。 ○行政職員としての経験もあり、これまでに培ってきた生徒指導に係る専門性のみならず、教科指導における自らの経験や実践を、積極的に発信し、吾市の学校教育の発展に尽力した。
國藤生美 (60歳) 広島県立府中高等学校長	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な学校において、校長を歴任しており、その力量を発揮している。各学校において、教職員に対して明確なビジョンを示し、教職員が働きがいをもって主体的に教育活動に取り組んでおり、地域社会との良好な関係を構築し、組織的なキャリア教育の実施や、ICTの効果的な活用による学びの変革の深化を推進している。 ○令和5年度、「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る学科等の特色を生かしたカリキュラム開発研究指定校として、総合的な探究の時間を核としたカリキュラム開発を推進した。カリキュラム開発に係り、リーダーシップを発揮して校内体制を充実させ、教職員全体で共通認識をもてるよう工夫する中で人材育成を図った。多くの生徒が興味・関心をもち、「探究サイクル」を自らの力で回せるようになり、生徒の探究活動に必要な資質・能力の育成を図っている。 ○令和7年度、広島県公立高等学校長協会の会長として、広島県教育の現状を丁寧に分析し課題を明確化するとともに、広島県教育委員会と密に連携し、強いリーダーシップのもと、スピード感をもった的確な対応することにより、校長協会をけん引している。